

## 開設 40 周年記念講演

挨拶

座長 日本体育大学名誉教授 正木健雄

おはようございます。私、本記念講演の座長を仰せつかりました正木でございます。私、本学に1961年に就任いたしまして、体育研究所の設立の準備をいたしました。62年の5月1日だったと思いますが、当時主任の松岡脩吉先生、それから所員の山田良樹先生それに荒川清美先生がかけつけてくださりまして、設立の集いを開いたことを鮮明に思い出することができます。それから40年。この体育研究所、いろいろ紆余曲折がございましたけれども、日本の体育・スポーツの発展に一定の役割を果たしてきたというふうに思います。

体育研究所の雑誌に40周年を記念する総説を私に書くように円田所長から依頼されまして、これからの研究の中心は「脳科学と教育」になるというふうに予想いたしまして、随分たくさん書かせていただきました。今日の配布資料でございます。結局、私たち体育研究所を中心として「脳科学と教育」についての研究をどこまでやってきたかということ、この機会に全部書かせていただくということでかなり詳しく紹介をさせていただいたわけですが、それをご覧いただければわかるかと思いますが、現在この分野のキーパーソンは小泉英明先生でございまして、超ご多忙の先生でございますけれども、ご無理をお願いいたしました。本当にありがとうございます。

それで、先生のご略歴でございますが、『育つ・学ぶ・癒す脳図鑑21』（工作舎）という本がございまして、これが一番ポピュラーで、勉強にいいのかなと思っておりますが、その一番最後に小泉先生のご略歴がございまして、1971年に東京大学教養学部の基礎科学科をご卒業、そして日立製作所に勤務されまして、MRI開発プロジェクトのリーダーをされて、現在99年から基礎研究所の所長をされていらっしゃいます。この間、東京大学大学院の客員教授等々でご活躍されまして、大河内記念技術賞、科学技術庁長官賞、それぞれ2回受賞されておられます。総説の中でも紹介させていただきましたが、現在世界の中のOECDの脳科学の研究のプロジェクト、また日本の「脳科学と教育」研究におきましても中心になってご活躍になっておられます。今日は11時半を目標にお話をさせていただきまして、その後20分質疑応答ということにさせていただきます。簡単でございますが、先生のお話のお時間をたっぷり取りたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。